

＜上サロベツ自然再生全体構想の概要＞

1 上サロベツ自然再生の対象

サロベツ湿原は、日本の代表的な泥炭地湿原の一つである。低地におけるわが国最大の「高層湿原」と、隣接する「海岸砂丘帯の砂丘林と長沼湖沼・湿原群」、自然に蛇行するサロベツ川に、タンチョウの繁殖も確認されている「ペンケ沼と周辺の低層湿原」に分けられる。これらの地域のほとんどが、利尻礼文サロベツ国立公園に指定されている。



上サロベツ湿原の一部では、多様な人間活動の影響により、地下水位が低下し乾燥化が進み、湿原植生に影響を与えている。このため、上サロベツ自然再生では、農業との共生を図りつつ、湿原等の保全・再生を目指す。

2 自然再生の対象となる区域

主として、北海道北部に位置する豊富町地内の国立公園である上サロベツ湿原とする。ただし、自然再生に資する事業は、湿原の自然環境に直接的に影響を及ぼすことが考えられる範囲で実施できる。

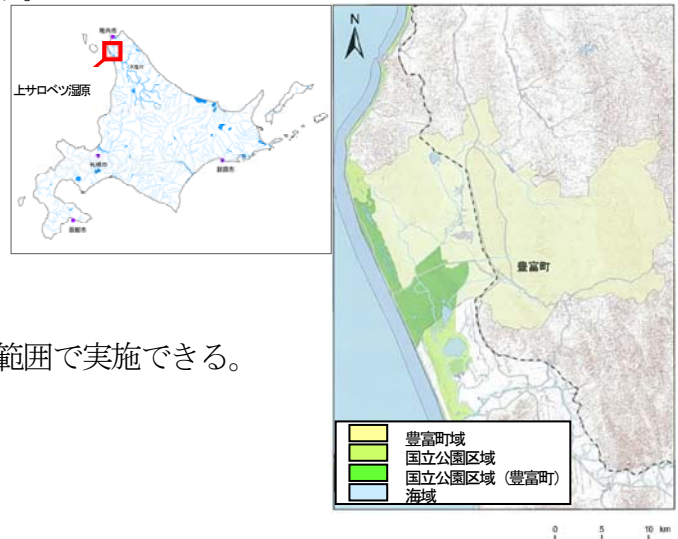


図1 上サロベツ地域とその周辺地

3 上サロベツ自然再生の目標

(1) 上サロベツ湿原の自然再生目標

① 高層湿原

おおむね国立公園指定時の植生や広がり状況をイメージし、現存する湿原植生等の保全を図ることを最優先とし、近年明らかに劣化・変化した範囲に対し対策を講じる。

② ペンケ沼

多くの絶滅のおそれのある貴重な動植物種が確認され、生物多様性の豊かな空間であることから、現況の維持(これ以上、埋塞が進まない状態)を目標とし、そのための対策を講じる。



図2 ササ生育地の変化(ササ前線)

③ 泥炭採取跡地

開水面の閉塞を進め、湿原植生の再生・創出を図る。ただし、渡り鳥が開水面を利用していることや、植生・生態系の回復過程を観察できるフィールドとして活用することなども考慮し、現況を維持するエリアも一部に設定する。

④ 砂丘林帯湖沼群

生態系の保持のために、水位低下の抑制を目標とする。

(2) 農業の振興に係る目標

地域の農地の過半を占める泥炭農地について、泥炭地の特性を考慮しつつ農地や排水路の再整備を行い、湿原と共生する酪農地帯としての農業振興を目指す。

(3) 地域づくりに係る目標

国立公園や農地等に対して必要な整備を行うとともに、地域住民の活動と連携して、地域の自然資源等の利活用による自然とのふれあい、エコツーリズムと地域農業を活かした特産品の開発や、ルーラルツアーを推進し、サロベツブランドの確立を図る。

4 上サロベツ自然再生協議会構成員 (平成21年2月現在)

個人28、団体法人12、関係行政機関9、その他関係機関5 合計54

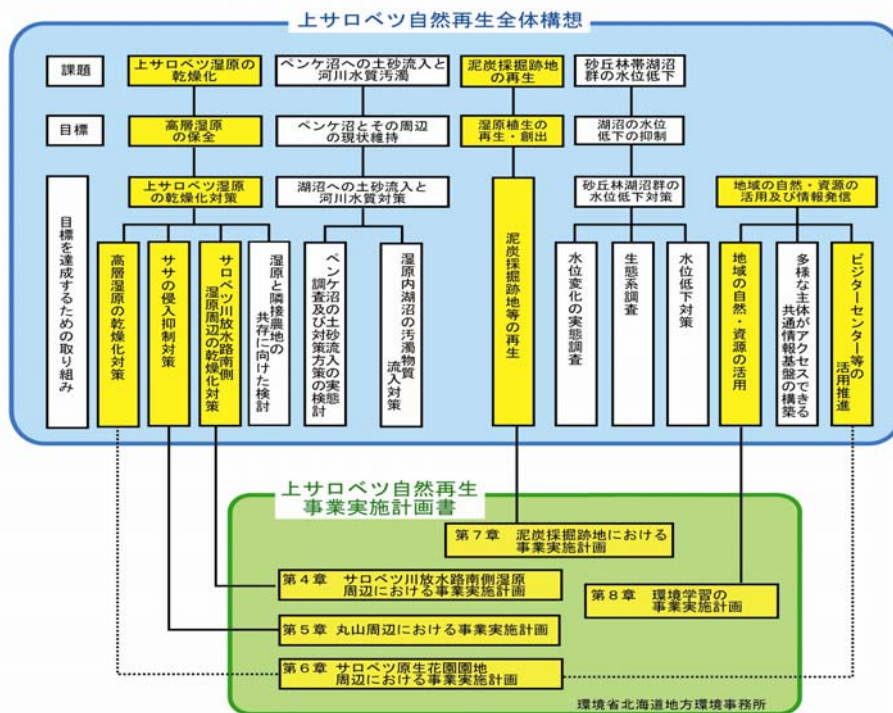


図3 全体構想における個別事業実施計画の位置づけ